

中国語話者の作文に出現した「に対して」の誤用分析

沈 衛傑

要旨

本研究では中国語母語とする日本語学習者の日本語の作文に出現した「に対して」の誤用について調査し、誤用の形態と原因について分析した。その結果、「に対して」の誤用は主に格助詞の「に」「を」、複合格助詞の「について／に関して」、「にとって」などの誤用に加え、文構造上の問題もあることが観察された。学習者の日本語の既習知識や母語の干渉に誤用の原因が存在するのではないかと考えられる。

キーワード：中国語話者、誤用、に対して、過剰使用、母語の干渉

1 はじめに

「について」「にとって」「によれば」など、連語が文法化して全体で助詞相当の機能を果たすものは、複合格助詞、複合辞、後置詞、格助詞相当句、助詞相当連語などと呼ばれる。本稿では、学習者に比較的わかりやすい複合格助詞という名称を採用し、そのなかで中国語を母語とする学習者が過剰使用する傾向のある複合格助詞「に対して」を対象に考察する。

複合格助詞「に対して」の用法は中国語を母語とする日本語学習者にとって習得困難なものの一つであり、過剰使用による誤用が顕著である。本稿では、中国語母語話者の作文に出現した「に対して」について誤用例を収集し、誤用の実態や傾向を考察し、誤用の原因について、日本語の文法知識の影響や母語干渉の影響などの視点から分析し、学習者が正確な用法を習得できるような整理を施すことを目指したい。

2 先行研究

中国語母語話者を対象とし、「に対して」の誤用について分析を行なった研究は主に以下のものがある。

2.1 張麟声 (2001)

張麟声 (2001) では、中国語を母語とする学習者は漢語語彙を優先的に使う傾向があり、中国語母語話者の頭では中国語の「对」イコール日本語の「に対して」というイメージが強いと指摘し、「に対して」の誤用を主に三つのパターンに分け、以下のようにまとめている。(以下の例文は原文例である。)

1) 「にとって」 → 「に対して」

両方に対応する中国語の表現がともに「对」か「对+アルファ」なので、同じ漢字表記を使う「に対して」のイメージが強い。

(1) (誤) 結婚なんか人間に対して本当に幸せですか？

(正) 結婚なんか人間にとって本当に幸せですか？

2) 「に向かって」→「に対して」

「に向かって」の一部の用法が中国語表現の「对」に対応している。

(2) (誤) 窓に対して座っている。

(正) 窓に向かって座っている。

3) 「について」→「に対して」

「について」の一部の用法が中国語表現の「对」に対応し、さらに「について」と互いに置き換えられる関係にある。

(3) (誤) 研究計画に対して話し合った。

(正) 研究計画について話し合った。

また、以上の三つのタイプ以外に、「にとって」と意味が近い「に」「として」の代わりに「に対して」を使用し、誤用を起こすこともあると指摘されている。

2.2 劉笑明・吉田則夫(2004)

劉笑明・吉田則夫(2004)では、「に対して」「にとって」「について」「に関して」などの複合格助詞を中国人日本語学習者はよく混同すると指摘し、中国語の介詞との対応の観点から分析している。(以下の例文は原文例である。)

1) 対して— 对于, 对

(4) 若い人は政治に対して期待していない。

年轻人对于(对)政治不报希望。

2) にとって— 对于(对)来说

(5) 親の離婚は子供にとって、不幸だ。

父母离婚对于(对)孩子来说很不幸。

3) について— 关于, 就, 对于

(6) アフガニスタンの情勢について新しい情報が入りました。

关于阿富汗的形势, 又有了新的情报。

4) に関して— 关于, 就, 对于

(7) その事件に関して学校から報告があった。

关于那件事, 已经得到了学校的报告。

以上の四つの複合格助詞は中国語で「对」或いは「对于」と表現することができ、意味的にも類似している。また、「对」のように、「に対して」だけでなく、「について」「に関して」にも対応するという一つの中国語の介詞が二つ以上の日本語の複合格助詞に対応する場合もあるため、中国人日本語学習者は混同しやすいと指摘されている。

3 研究方法

本稿では中国語母語話者の作文を対象とし、作文に出現した「に対して」の誤用は具体的にどのような形で現れているかについて考察し、その誤用の原因を探る。分析に用いた作文は、一橋大学の松岡弘・石黒圭両氏が収集した中国語母語話者の作文計 436 編である。1993 年から 2002 年の 10 年のあいだに一橋大学で文章表現に関連する上級レベルの授業に出席した学生が提出したものである。各作文ごとに「に対して」を含む文をすべて抽出した結果、197 例が集まった。

筆者は日本語母語話者ではないため、最初の段階では、日本語母語話者¹に協力を仰ぎ、197 例の「に対して」の用法から間違っているものを選び出し、正しい形にするという調査を行った。この調査結果について、以下の「4 結果と分析」で述べる。

4 結果と分析

本調査では、誤用と判断された文は 98 文で、全用例 197 例の約 50%を占めた。「に対して」を具体的にどんな形と混同しているか、どう直せばいいかという観点から、「に対して」の誤用例を「格助詞」の誤用、「複合格助詞」の誤用、「その他」という三つのグループに分けた。以下の表はそれぞれの誤用の実態、出現数を示したものである。

	誤用の原因	誤用数
格助詞の誤用	「を」の誤用	10
	「に」の誤用	9
	計	19
複合格助詞の誤用	「について／に関して」の誤用	17
	「にとって」の誤用	14
	「において」の誤用	5
	「に向かって」の誤用	1
	計	37
その他	「に対する（連体形）」の誤用	19
	接続上の問題	17
	文全体の変更が必要	6
	計	42

¹ 筒井千絵氏（東京工業大学統合研究院ソリューション研究員）が判定を行い、その結果を石黒圭氏（一橋大学留学生センター准教授）が確認した。ご協力に記して感謝申しあげる。

前ページ末の表からわかるように、中国語話者の日本語の作文において、「に対して」とほかの複合格助詞の誤用が一番多く、37 例もあった。その中でも「に対して」と「について／に関して」の誤用が 17 例もあり、比較的にかかったのに対して、先行研究で言われている「に向かって」の誤用は 1 例しか出現しなかった。格助詞「を」「に」の誤用や「に対して」の連体形である「に対する」の誤用もそれぞれ 19 例あった。それ以外に、「その他」で示しているような文構造上の問題も誤用の原因の一つとしてかなりの数を占めている。では、中国語話者は日本語の作文において「に対して」をどのように誤用しているか、以下では具体例を交えて分析する。

4.1 格助詞の誤用

この誤用タイプでは、「を」の誤用が 10 例、「に」の誤用が 9 例、合わせて 19 例あった。

- (8) (誤) この現象は我が国の農村に対してどんな影響をもたらすか。
 (正) この現象は我が国の農村にどんな影響をもたらすか。
- (9) (誤) 私も、大部分の人々の意見のように、死刑制度の存置に対して賛成する。
 (正) 私も、大部分の人々の意見のように、死刑制度の存置に賛成する。
- (10) (誤) 日本に着いてから、日本人が台湾人に対して無視することを驚いている。
 (正) 日本に着いてから、日本人が台湾人を無視することを驚いている。

「に対して」は、「対象」の意味を表す場合、「を」「に」と文法的性質が類似しているために、誤用が起きたのではないかと考えられる。学習者はまだ、一口に「対象」といっても、「に対して」と「を」「に」の 3 者は述語動詞と対象物との関係においてそれぞれ異なる意味を持つということをまだはっきり認識していない可能性がある。また、このようなタイプでは、述語動詞が心理動詞である場合、例えば「賛成する」、「無視する」、「重視する」などで、誤用が多く見られた。

4.2 複合格助詞の誤用

このタイプの誤用では、今までよく指摘されている複合格助詞「について／に関して」の誤用が最も多く、17 例もあった。次に多かったのは「にとって」の誤用で、14 例あった。そして、「において」の誤用も 5 例出現した。最も少なかったのは「に向かって」の誤用で、1 例しかなく、先行研究と異なる結果となった。

- (11) (誤) この点に対して、他の方法があるはずだと思う。
 (正) この点について／に関して、他の方法があるはずだと思う。
- (12) (誤) 金持ちに対して、こんな数の損失はわずかでしかない。
 (正) 金持ちにとって、こんな数の損失はわずかでしかない。
- (13) (誤) 死刑制度は、今の社会状況に対して必要な犯罪防止手段である。
 (正) 死刑制度は、今の社会状況において必要な犯罪防止手段である。

(14) (誤) つまらない留守番電話に対して話さなくてもメッセージを送って送信できる。

(正) つまらない留守番電話に向かって話さなくてもメッセージを送って送信できる。

これらの複合格助詞は関係的な意味機能をもっている面で類似しているが、すべて動詞から派生してきているので、もとの動詞の意味が多少残っていることから、それぞれが表している関係も異なり、文構造上の共起制約も違うという特異性を持っている。その特殊性こそが使い分けのポイントであるが、学習者はまだそれを習得できていない可能性がある。

4.3 その他(文構造上の問題)

この誤用のタイプでは、主に文構造上の問題で、「に対して」の連体形である「に対する」の誤用、接続上の問題と文全体を変更する必要があるなどの誤用がみられた。中には、「に対する」連体形の誤用が最も多く、19例もあった。接続上問題がある例は17例で、文全体の変更が必要なものは6例あった。

「に対して」の連体修飾形には「に対しての」と「に対する」の2種類があるが、誤用例を観察してみると、「に対しての」は「に対する」に置き換えたほうが良いという誤用例が多い。

(15) (誤) 人々が職に対しての観念が変わってきた。

(正) 人々が職に対する観念が変わってきた。

接続上の問題においては、主に「のに対して」の前置詞(節)の接続形の間違いが見られた。

(16) (誤) 日本人は「letter」だと思うに対して、中国人は「tissue paper」だと思う。

(正) 日本人は「letter」だと思うのに対して、中国人は「tissue paper」だと思う。

また、「に対して」を別の形に変えるだけでは正しい文にならないという、語彙レベルを超えた、修飾関係など文全体の構造に関わる問題もある。

(17) 人件費が上がった日本は東南アジアへの移転投資がおおく見えるだろう。その投資の中に、まず地元の文化、法律、習慣をなれない限り、企業の成長が困難になるだろう。故に日本が地元の文化交流とか企業の社会参加とか、投資国に対して、不可欠な認知だと思っている。

では、上記のような誤用の原因はどこにあるか、学習者の既習知識が学習者に及ぼす影響と母語の干渉の2点から原因の分析を行う。

5 誤用の原因の分析

5.1 学習者の日本語の知識の影響

5.1.1 「格助詞」の誤用

中国語母語とする日本語学習者は、格助詞の誤用としては、以下のようなものが見られた。

(18) (誤) 課題文の「漢字のなくなる日は必ず訪れる」という考えに対して納得した。

(正) 課題文の「漢字のなくなる日は必ず訪れる」という考えにに納得した。

「対象」を表す場合、与格として、「に」でなければならない、「に/に対して」両方可能、「に対して」でなければならないという三つの場合がある。

(19) 彼は彼女の長い髪 {○に/×に対して} そっと触れた。(庵他 2001 原文例)

(20) 若い人は政治 {○に/○に対して} 期待をしていない。(庵他 2001 原文例)

(21) 隣国の侵入 {×に/○に対して} 勇敢に戦った。(横田 2006 原文例)

(19)は庵他(2001)で指摘されているように、「に」格で表される対象のうち動作が直接及ぶ対象で、「に対して」を使うことができない。例(20)は「に/に対して」両方が使える例だが、両者には微妙な意味の差が存在している。これは「に対して」は動詞性が残っており、「に」格と置き換え可能な場合であっても、もとの動詞の意味の影響で、行為者と対象物の関係を表す場合、坂井(1992)で指摘されているように、行為者と対象物の間に一定の距離を置かれ、対象物は全体として一つのものとしてとらえられているのである。例(21)は横田(2006)で指摘されているように、「対抗・抵抗・対処する対象」という動詞「に対する」の意味合いを強く残している場合、「に対して」は「に」に置き換えにくく、動詞として使われているとも見なすことができる。

以下では、誤用例で多く見られた心理を表す動詞を用いる場合についてみる。

(22) (誤) 私も、大部分の人々の意見のように、死刑制度の存置に対して賛成する。

(正) 私も、大部分の人々の意見のように、死刑制度の存置にに賛成する。

(23) (誤) これはお客さんに対して尊敬する言い方である。

(正) これはお客さんを尊敬する言い方である。

「対象」を表す「に対して」について「動作、感情、態度」の対象として捉えられているのがほとんどであるが、中には心理動詞の感情の対象の場合、例(22)(23)のように、「に対して」ではなく、「に」か「を」をとる。横田(2005)では『「祖父に対して尊敬する」のように『を』を『に対して』に言い換えることはできない。ただし、目的語を含めた動作をあらわす句『尊敬の念を持つ』全体の向かう先として『祖父』を捉え、それを示すときには『に対して』を用いて『祖父に対して尊敬の念をもつ』ということができる』と指摘されているように、「に対して」は距離感、全体性を要求しているのに関わりがある。

こうした心理動詞によって要求される格が違ふということは、教育現場ではそれを特別

に取り出して説明するのが少ないようである。また、どのような心理動詞がどのような格を要求しているのか、格の標示が違うということは意味の点でどう異なっているのかが区別のポイントになるようである。例を見てみよう。

(24) メンバーは反響の大きさに驚いている。

(25) 女性は結婚相手の経済力を重視している。

(24)のように、心理動詞「驚く」は結果的で、外部環境からの刺激物によって直接的に感情反応が起こされるという結果を表しているのに対し、例(25)「重視する」の場合、意図的で、感情の経験者が意図的に対象物に心理的動きを起こすという働きかけを表しているのである。つまり、前者は直接的な反応で、後者は主観的な心の働きかけであるといえる。前者は「に」格をとるのは感情が起こる外部原因とも言えるが、「に」格には直接性、結果密着性があるのに対し、後者は「を」格をとるのは心の働きかけが一種の動作として捉えられているのではないかと思われる。

つまり、「対象」を表す場合、「に対して」と「に」は方向性を示す面に共通性をもっているが、述語動詞と対象物との関係の面から言うと、「に」は直接性、結果密着性、「に対して」は距離感、全体性をもっていると言える。中には心理動詞の感情の対象を表す場合、「を」をとる動詞もあるが、それはその動詞が意図的で、心の働きかけを一種の動作として捉えているのである。

5.1.2 「複合格助詞」の誤用

ここでは主に混用が多かった「について」をめぐって検討したい。

「に対して」と「について」は、意味用法上近いところがある。森田・松木（1989）では、「に対して」と「について」の使い分けについて、入れ換え可能な場合、意味にずれが生じる場合、入れ換え不可能な場合の三つに分けられると述べられている。こうした用法上の相違は日本語学習者にとって難しいところである。

(26) (誤) 日本人は台湾人に対してはよく理解していません。

(正) 日本人は台湾人についてよく理解していません。

塚本（1991）は、「について」は「を」格と交替できる必須補語としての機能と、「を」格と交替できない副次補語としての機能とに分類した。以上の誤用例では、「について」は「を」格と交替できる必須補語としての機能と見られるが、こういう場合、「に対して」に言い換えにくい。

「に対して」と「について」が言い換え可能な場合については、森田・松木（1989）では、「について」については、「二語の入れ換えが可能なのは、『答える』『反論する』といった対象に作用を及ぼす意味合いの言語活動や、『興味がある』『関心を持つ』『中立を保つ』『不平をもつ』『敬意をいただく』などの心的傾向を表す語を修飾する場合である」とされている。

(27) 生徒の疑問について答える。(原文例)

生徒の疑問に対して答える。(原文例)

以上の例では両者が言い換え可能であるが、意味上全く同じではない。「について」については、坂井(1992)では、「について」は、対象物に対する行為者の知覚、見解を表す動詞と共起しやすく、行為者が対象物の具体的な内容を様々な観点からうけとめ、対象物に対し、積極的に関わりをもとうとし、二者の関わり方は密接であると指摘されている。ここから、行為者と対象物の間に一定の距離を置かれ、対象物は全体として一つのものとしてとらえられている「に対して」との意味の違いが出てくる。

また、意味にずれが生じる場合については、横田(2005)では、両者の意味のずれが両者の用言の意味内容によって左右されるのではなく、前に来る名詞の意味内容によって左右されるのであるという指摘がある。

(28) 息子について説明する。(説明する内容=息子)(原文例)

息子に対して説明する。(説明する相手=息子)(原文例)

以上の例では、名詞「息子」は与格としてとらえるか対格としてとらえるかの違いで、文の内容もそれによってずれが出てくる。

このように整理すれば、両方の用法上の違いがはっきり覚えられるであろう。

5.1.3 文構造上の問題

「に対して」の連体形として、「に対しての」と「に対する」の二つの形があるが、両者は文法上ほぼ同一視されている。山田(2002)では「微細な違いを除き、ほぼ用法に差はない」と指摘され、横田(2007)では、両者の意味の差はないと考えられるが、文体上、「『名詞への名詞』『名詞に対しての名詞』『名詞に対する名詞』と書き言葉度が増していくと言える」と指摘されている。このような文法上の説明から学習者が両方を同じものとして捉え、誤用が出てくるのである。以下の誤用例を見てみよう。

(29) (誤) 人々の職に対しての観念が変わってきた。²

(正) 人々の職に対する観念が変わってきた。

「に対しての」は「に対する」に置き換えたほうがよいという母語話者の判断から、両者には違いがあることがわかるが、この違いをはっきり説明しないと、同じ誤用を避けるのが難しいと思われる。文が短い場合あるいは節の場合では、両者の違いが確かにほとんど見られないが、一定の長さの文脈に置くと、「に対して」の前後のどちらに焦点が置かれるかで使い分けがよく分かる。インターネットでの用例を見てみよう。

(30) 矯正局は、矯正施設の保安警備、分類保護、作業、教育、鑑別、医療、衛生など被收容者に対する処遇が適性に行なわれるように指導、監督とともに、最近の矯

² 対比の文脈がないという条件の下でこの文法性判断は成立する。「しかし、学歴に対しての観念には変化が見られない」のような文脈が与えられれば、許容される可能性もある。

正思潮に沿った新しい処遇方法について調査研究を行なっています。

(<http://www.moj.go.jp/KYOUSEI/> 2009年4月26日取得)

(31) 当社は、企業が果たすべき4つの経営責任を重視しています。4つの責任とは、「お客さまに対する責任」、「従業員に対する責任」、「地域社会に対する責任」、「株主に対する責任」です。私たちは「良き企業市民」としてこれらの責任を果たしていきます。

(<http://www.tonengeneral.co.jp/apps/tonengeneral/citizenship/society/>

2009年4月26日取得)

(30)では、「に対する」の後の名詞「処遇」に焦点が置かれている。「矯正施設の保安警備、分類保議、作業、教育、鑑別、医療、衛生など」も「処遇」のさまざまな内容として、「処遇」を説明しているのである。

一方、(31)では、4つの責任について「に対するの責任」によって、その内容の指向性が強調されている。つまり、「に対するの」の前の名詞に焦点が置かれているのである。

(30)と(31)の「～に対する／に対するの」の位置を考えると、「～に対する」は主部に置かれ、当該の名詞句がさらに説明を受けることになる。一方、「～に対するの」は述部に置かれ、それ以上の具体的な説明を受けることはない。そのこともまた、後項に焦点がある「に対する」、前項に焦点がある「に対するの」という違いを反映しているように思われる。

以上の使い分けは、「に対するの＋名詞」は複合格助詞として「に対して」に格助詞「の」をつけて構成され、「に対する＋名詞」は動詞の連体形によって構成されていることから出てくる使い分けだと思われるが、「に対して」には「複合格助詞」としての働きが強く、「指向性」が強調され、「に対する」は動詞として後の対処が強調されているのである。

また、文の接続上の問題で、「これに対して/それに対して」を「一方」に直した例があるが、これは日本語の文法書に「これに対して/それに対して」が「一方」と言い換えられるという説明が多いため、学習者は両者を使い分けなかったことが原因の一つであろう。

(32) (誤) 文科的人間がもし文科だけにこだわると、今日つぎつぎと目まぐるしく変化して行く科学技術について行けなくなり、ただの空論家にすぎない。それに対して、理科的人間だけになると、今最先端の医療技術がもたらした尊厳死、バイオテクノロジーなどの倫理問題において、うまく対応できなくなるに違いない。

「これに対して」「それに対して」は後ろには主に対応、対処の表現を伴い、「これ」「それ」の表す事柄に対してさまざまな対処、処置、態度をとることを示しているのに対し、「一方」は接続詞として主に事柄の正反対の両面を対照的に並べ、述べるのに使われる。(32)では、「それに対して」の前後は対照的な関係であるため、「一方」を用いるべきであ

る。この使い分けは、以下の(36)のインターネットからの用例によく示されている。

(33) 関係者によると、民主党、山岡国対委員長は13日までに、今年度補正予算案を来月15日までに成立させるのと引き換えに解散を約束するよう求めた。これに対して、自民党、大島国対委員長は「約束できない」と拒否したという。

一方で、民主党、小沢代表は14日午後5時ごろ、「解散総選挙はできるだけ早い方がいいという主張は変わりません」と述べている。

(<http://www.ntv.co.jp/news/133132.html> 2009年4月26日取得)

(33)では、「これに対して」の「これ」は解散を約束する要求を指すが、この要求に対して、「これに対して」の後、拒否という態度を示したように、「これに対して」の「対して」は動詞「対する」の連用形として用いるのも見られる。

一方、「一方で」は接続詞として、前文の「自民党、大島国対委員長は「約束できない」と拒否した」という態度と後文の「民主党、小沢代表は14日午後5時ごろ、『解散総選挙はできるだけ早い方がいいという主張は変わりません』」という態度を対照的に並べて述べているに留まる。

以上をまとめると、学習者向けの文法書では、よく「に対して」を「動作行為態度感情の対象」として捉え、その意味用法をよりわかりやすく理解するために、意味用法上に共通性ばかりが強調され、使い分けについてあまり言及されていないのが現状である。学習者はそれらを同じ意味としてインプットし、使い分けせずに使用しているのが誤用を引き起こす原因の一つになっているのではないかと考えられる。

5.2 母語の干渉

5.2.1 漢字「対」の意味の転移

中国語と日本語が同じ漢字文化圏にあるので、同じ字形をしている漢字或いはよく似ている漢字が少なくない。中には意味が全く同じであるものもあるが、ずれているもの、全く異なるものもある。中国語の介詞「对」という漢字は日本語の複合格助詞「に対して」の「対」と字形がよく似ており、字形だけではなく、意味用法上の対応も見られる。

「に対して」の一般的な知識として、以下のようなことがよく知られている。1) 動詞「対する」から由来し、2) 形態的に固定化し、3) 動詞の元の意味が稀薄になると同時に関係的な意味機能を持つようになり、主に動作・行為・感情・態度が向けられる対象を表し、4) 「対象」を表す場合、助詞「に」とほぼ同じような機能を果たすようになる。これに対して、中国語の介詞「对」について、辞書や文法書を調べてみると、1) 動詞「対」から由来し、2) 動詞の形態をそのまま借用し、3) 動詞の意味がだんだん軽くなってできたもので、4) 主に動作の対象や対処関係を表すという知識が得られる。

例を見てみよう。

(34) 彼は仕事に対してとても真面目です。

中国語訳→他对工作很认真。

(35) 彼は実際の状況に対して理解が欠けています。

中国語訳→他对实际情形缺乏了解。

(36) 彼は文芸に対して興味をもっている。

中国語訳→他对文艺感兴趣。

以上のように、「に対して」と「对」は対象を導く面で、かなり対応しているようである。これによって、中国語母語話者は直感的に両者が意味用法上に全て対応していると同一視しやすい。以下の作文の誤用例が示しているように、中国語母語話者は「对」の意味を、日本語で表現する場合、「に対して」と誤用する傾向が強い。

(37) 中国語訳→这种现象将会对我国农村带来怎样的影响呢？

(誤) この現象は我が国の農村に対してどんな影響をもたらすか。

(正) この現象は我が国の農村にどんな影響をもたらすか。

(38) 中国語訳→日本人对教育重视是随处可见的。

(誤) 日本人は教育に対して重視することはどちらでも見えます。

(正) 日本人は教育を重視することはどちらでも見えます。

(39) 中国語訳→对这次离党事件，我并不觉得不可思议。

(誤) この離党事件に対して、私は不思議と思わない。

(正) この離党事件について、私は不思議と思わない。

(40) 中国語訳→对有钱人来说，这点损失微不足道。

(誤) 金持ちに対して、こんな数の損失はわずかでしかない。

(正) 金持ちにとって、こんな数の損失はわずかでしかない。

(41) 对着无趣的留言电话，即使不说话，也可以通过发送短信来传递信息。

(誤) つまらない留守番電話に対して話さなくてもメッセージを送って送信できる。

(正) つまらない留守番電話に向かって話さなくてもメッセージを送って送信できる。

中国語の介詞「对」は多義的で、馬小兵（2003）では、中国語の介詞「对」の意味は「対象目標」、「対処関係」、「関連関係」、「方向」の四つにまとめられている。以上の中国語母語話者の誤用例から分かるように、「对」には、「対象」「対処」を表す場合、「に対して」と対応する場合があるが、例(37) (38)のように格助詞「に」「を」と対応する場合もある。「関連関係」を表す場合、例(39) (40)のように「について」「にとって」と対応する場合が

ある。「方向」を表す場合、例(41)のように「に向かって」と対応する場合がある。「対」のカバーする範囲は「に対して」よりかなり広いことがこの調査結果でも確かめられた。

5.2.2 「対」の格関係の転移

馬小兵(2003)では、日本語の複合格助詞「に対して」と中国語の介詞「对」との対応関係について、以下のように指摘している。

- 1) 「対処関係」の「対」と対応している。
- 2) 「対象目標」を表す「対」の中の「述語動詞が非動作動詞」である場合、それに対応する。
- 3) 「方向」を表す「対」と「関連関係」を表す「対」とは対応しない
- 4) 「対象目標」を表す「対」の中の「述語動詞が動作動詞」である場合、及び「対」が文の実質的な主体を示す場合、それらに対応しない。

まず「対」と「に対して」が対応する場合から整理したい。中国語では「対処関係」と「対象目標」を二種類に分けているのに対し、日本語ではそういう区別はなく「動作行為態度感情の対象」という表現でそれを含んでいる。確かに馬小兵(2003)で指摘されている対応関係には以上の1)、2)の場合、対応する場合が多いが、対応しない場合もある。問題は心理動詞が述語になる場合である。

(42) 学生们对老师很尊敬。 / 学生们很尊敬老师。

学生たちは教師をたいへん尊敬している。

(43) 日本对教育很重视。 / 日本很重视教育。

日本は教育を大変重視している。

(44) 他对我一点儿也不关心。 / 他一点儿也不关心我。

彼は私のことを少しも気にかけてくれない。

(42)~(44)の例からもわかるように、「対処関係」の「対」には「に対して」だけではなく、「を」にも対応していることがわかる。中国語では心理動詞の場合、対象として提示されたものが、普通の語順でいうと、動詞の後ろにつくが、対象を強める場合、介詞「对」によって対象を前置することもできる。つまり文法的意味では同じであるが、表現の形としては「対格」と「与格」の二種類の言い方が取れる。日本語ではそれができなく、「与格」か「対格」かいずれかに決まっている。

馬小兵(2003)では、1)、2)の場合両者が対応していると結論づけているのは、「に対して」についての分類によるものである。馬小兵(2003)では、「に対して」を「に」と互換できるタイプ、「を」と互換できるタイプ、ほかの格助詞と互換不可能なタイプの三つにわけ、「を」と互換できるタイプがあると指摘されている。

(45) このため浅井氏{に対して/を}十分以上に懐柔しておかねばならなかった。(『国盗り物語』 原文例)

しかし、こうした例はきわめてまれであり、基本的には庵・他（2001）で指摘されているように、「を」格で表される対象である場合「に対して」と置き換え不可能である。以下の誤用例を見てみよう。

(46) (誤) これはお客さんに対して尊敬する言い方である。

中国語訳→这是对客人尊敬的说法。 / 这是尊敬客人的说法。

(47) (誤) 日本人は教育に対して重視することはどちらでも見えます。

中国語訳→日本人对教育的重视随处可见。 / 日本人重视教育随处可见。

(48) (誤) 消費者たちはその会社に生産された食品に対して拒絶するしかないのだ。

中国語訳→消费者对那个公司生产的食品只拒绝。 / 消费者只拒绝那个公司生产的食品。

以上の誤用例では、心理動詞「尊敬する」「重視する」「拒絶する」の場合、対象は「に対して」ではなく、いずれも格助詞「を」をとる。このように、心理動詞の用法に注意しないと、誤用を避けることができない。

次は対応しない場合を整理したい。「方向」を表す「对」の場合、構文には「对」に後続する名詞は方位名詞、場所名詞で、述語動詞は具体性を持つ移動する意味を表す動作動詞で構成され、具体的な方向を表している。それに対し、「に対して」は先行する名詞が具体的に方向または場所を表す語であっても、具体的に移動する意味を表す述語動詞が現れない。述語動詞が具体的に移動する意味を表す語であっても、先行する名詞には具体的に方向または場所を表す語が現れない。馬小兵（2003）では「に対して」は中国語の「对」のように、具体的な「方向」を表すことは出来ず、両者は対応しないと結論づけている。

「方向」を表す「对」は日本語に訳すと、「に」「へ」でもよいが、方向を明示する「に向かつて」がより自然に対応する。

「関連関係」を表す「对」の場合、通常「对…来说」という形で、主語は事物を表す語が多く、述語は存在、判断など抽象的な意味を表す動詞または事物の性質を評価する形容詞が多い。馬小兵（2003）では通常人称名詞を主語とする「に対して」は主語の態度を表明するので、「对」が表す「関連関係」には対応しないと結論づけている。特定の対象に関連して、その特定の立場から観察する場合、日本語は通常「にとって」の形で評価を示す。

以上、「对」が「に対して」と対応していない「方向」「関連関係」の意味用法を整理した。実際に「関連関係」を表す「对」は「对…来说」だけでなく、言語、思考、調査などの「範囲」を表す用法もあるが、こういう場合、日本語に訳すと「について/に関して」と対応している。つまり、ある人や事物という立場から考え方を示す場合は「にとって」と対応し、範囲を表す場合は「について/に関して」に対応するのが多い。

「方向」を表す「对」の場合、中国語の母語話者の誤用例からみると、誤用が少なく、「に対して」を使ったのは1例しかない。「関連関係」を表す「对」の場合、「に対して」の過剰使用傾向が強い。中には「範囲」を表す「对」の場合、「について/に関して」に対

応すべきであるが、「に対して」が最も多く誤用されている。これは張麟声 (2001) が指摘どおり、日本語では、「に対して」「について」の使い分けがあるが、中国語ではすべて「对」に訳すことができる。こうした影響を受けて誤用が多く生じるのである。

以下の誤用例を見てみよう。

(49) (誤) 一つの文化の形成に対して、その起源が重要であると私は考えている。

(正) 一つの文化の形成については、その起源が重要であると私は考えている。

中国語訳→对一个文化的形成, 我认为起源重要。

以上の誤用例を観察すると、日本語では佐藤 (2001) で指摘されているように、「について」は全体のテーマを差し出す場合、通常「については」の形をとり、主語に先立って文頭に使用されているが、中国語でも「对」のあとにポーズを入れ、文の冒頭に持ち出さなければならない。こういう場合の「对」は述語を修飾するのではなく、文全体にかかわるとも言える。このような文中の位置と両方の意味内容の対応は「に対して」の過剰使用を避ける場合のポイントになる。

中国語の「对…来说」と「にとって」は「ある立場からみた考え方」という意味用法や評価的な述語構成などの面ではよく対応しており、このことを知っていれば、一般に誤用を避けることができる。ところが、「对…来说」を「に対して」とする誤用が多く出てくるのは、そうした意味用法や文構造などの対応的な面はおそらくまだ十分意識されていないからであろう。

(50) (誤) 妊娠している婦人に対して、煙草の煙は極めて悪いものである。

(正) 妊娠している婦人にとって、煙草の煙は極めて悪いものである。

中国語訳→对孕妇来说, 烟是极其有危害的。 / 烟对孕妇是极其有危害的。

また、上記の誤用例の中国表現をみると、二通りの言い方があるが、これは中国語の話し言葉では「对…来说」がよく「对」の一字に簡略されることがあるためである。中国語母語話者がこういう言語習慣の影響で、「对」を「に対して」で表現し、誤用したのではないかと思われる。

5.2.3 「对」の連体修飾構造の転移

日本語では「名詞+に対して」の連体修飾構造は 2 種類ある。「名詞+に対して+の+名詞」のような複合格助詞として「に対して」に格助詞「の」をつけて構成されるものと、「名詞+に対する+名詞」のように動詞の連体形によって構成されるものである。

中国語では「对+名詞」で構成される介詞フレーズは連体修飾語になることもできるが、連体形として一つしかない。「对+名詞」と修飾される語との間に必ず「的」を入れ、「对+名詞+的+名詞」の形になる。

(51) 社会上对他 / 的 / 误解很深。

日本語訳→世の中では彼に対する誤解がいろいろあった。(馬小兵 2002 文例参照)

中国語の「対+名詞+的」は連体形として一つの形しか取れないが、意味上「に対して」の連体形の両方、つまり「名詞+に対して+の+名詞」「名詞+に対する+名詞」とも対応することができる。中国語母語話者の誤用例からみると、「名詞+に対する+名詞」より、「名詞+に対して+の+名詞」のほうが多く使われているが、これは中国語の「対+名詞+的」は日本語の「名詞に対しての名詞」とはただ付属する名詞の前に置くか後ろに置くかの違いだけで、構文上かなり対応しているからであろう。

ただし、中国語の「対+名詞+的+名詞」という形は必ず連体形になるとは言えない。以下の例を見てみよう。

(52) 对 / 他的误解，小王表现得很大度。

日本語訳→彼の誤解に対して、王さんは寛大な態度を取っている。(馬小兵 2002 文例参照)

以上の例では、(52)は同じ「対+名詞+的+名詞」の形をとっているが、「対」につく名詞が意味上「対」の目的語ではなく、あとの部分の名詞の修飾語であるので、介詞フレーズ連体修飾形になれない。

また、(53)のように、連体形であるが、必ず「名詞に対する名詞」「名詞に対しての名詞」と対応するわけではない。こうした点に注意しないと、母語干渉による誤用も起こりやすい。

(53) 这是我们对教育改革 / 的 / 一点建议。

日本語訳→これは教育改革についての私たちの建議です。

5.2.4 「対」の接続上の転移

中国語の介詞「対」には「対比」という意味用法がなく、「対比」を表す「に対して」とは対応しないので、介詞「対」による誤用とはされない。

(54) (誤) 日本人は「letter」だと思うに対して、中国人は「tissue paper」だと思う。

(正) 日本人は「letter」だと思うのに対して、中国人は「tissue paper」だと思う。

中国語訳→日本人认为是信纸，与此相对，中国人则认为是纸巾。

(54)のように、節(句)が「に対して」に前置される場合、その節(句)を「の」で名詞化する必要があり、日本語では述語動詞、述語形容詞の語尾活用によって「の」に接続するのである。「のに対して」の前置詞の接続の誤用が比較的多いことについては、これは日本語では動詞、形容詞、形容動詞は全て語幹と語尾のあわせによって構成され、語尾の変化によって活用することができるのに対し、中国語にはこういう表現がないから生じた誤用例だと言える。

また、文と文を接続する場合、「これに対して/それに対して」の過剰使用傾向³については、中国語の干渉を受けているとも考えられる。次の例を見てみよう。

(55) (誤) 中国語では、同じ「娶」という漢字は、ある男性がある女性を取ることであり、それに対して、「嫁」というのは、女性が結婚を通じてやはり自身の「家」を見つけられる。

(正) 中国語では、同じ「娶」という漢字は、ある男性がある女性を取ることであり、一方、「嫁」というのは、女性が結婚を通じてやはり自身の「家」を見つけられる。

中国語訳→在汉语中，同一个“娶”字，是指男性“取得”女性；与此相对，“嫁”字则是指女性通过结婚找寻到自己的“家”。

(55)では、中国語で「与此相对」という意味で使う意図であるが、「与此相对」は介詞「与」と名詞「此」と動詞「相对」からなるので、日本語になると母語と形式上よく似ている「これに対して/それに対して」になるのである。「これに対して」「それに対して」は中国語で訳せば、「对此」と対応しているが、中国語の「与此相对」は日本語になると、「一方」或いは「その一方」になる。こうした誤用例からわかるように、中国語母語話者は母語干渉によって誤用したのである。

6 まとめと今後の課題

本稿では中国語母語話者の作文に出現した「に対して」の誤用例を収集し、誤用実態について考察した。その誤用原因について、学習者の日本語の知識の影響と母語干渉の二つの視点で分析を行なった。では、「に対して」と「を」「に」の違いをどのように学習者に説明すればいいのか、誤用をなくすのにどんな知識が必要なのか。今後の課題として「に対して」の誤用しやすい項目との使い分けについて更に分析し、「に対して」の習得過程も合わせて検討していきたいと思う。

参考文献

- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘(2001)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 金仙姫(1990)「現代日本語における「について」「に関して」「に対して」の用法上の差異について—アンケート調査を中心に—」『国語学研究』30、東北大学
- 坂井厚子(1992)「「について」「に対して」の意味・用法をめぐって」『信州大学教養部紀要』26、信州大学

³ 「これに対して/それに対して」と「一方」の混同に関しては、5.1.3を参照のこと。

- 佐藤尚子（1989）「現代日本語の後置詞の機能—「について」と「に対して」を例として」『横浜国大言語研究』、横浜国立大学
- 佐藤尚子（2001）「社会科教科書における後置詞について」『千葉大学留学生センター紀要』7、千葉大学
- 張麟声（2001）『日本語教育のための誤用分析—中国語話者の母語干渉 20 例』スリーエーネットワーク
- 塚本秀樹（1991）「日本語における複合格助詞について」『日本語学』10-3、明治書院
- 馬小兵（2002）「中国語の介詞“对+N1+的+N2”と日本語の「N1 に対する N2」について」『文学部紀要』16-1、文教大学
- 馬小兵（2003）「中国語の介詞「对」と日本語の複合格助詞「に対して」」『文学部紀要』16-2、文教大学
- 森田良行・松木正恵（1989）『日本語表現文型—用例中心：複合辞の意味と用法』アルク
- 山下明昭・山内博之・島田麻美（1994）「に対しての文法機能」『国語と教育』18、大阪教育大学
- 横田淳子（2005）「「に対して」の意味と用法」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』32、東京外国語大学
- 横田淳子（2007）「「に対して」の名詞修飾用法」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』33、東京外国語大学
- 劉笑明・吉田則夫（2004）「「に対して」「にとって」「について」「に関して」の意味分析—日中対照の立場から—」『岡山大学教育学部研究集録』125、岡山大学

（しん えいけつ 言語社会研究科外国人研究員）